

第 47 回 START プログラム (アメリカ)

2017 年 9 月 9 日から 9 月 24 日までの 2 週間、第 47 回 START プログラム (※) に学部 1 年生 30 人が参加し、田北冬子特任講師 (外国語教育研究センター) ら 3 人の引率教職員と共に、アメリカのバージニア州にあるジェームスマディソン大学 (JMU) に留学しました。

JMU は、首都ワシントン D.C. から車で約 2 時間の場所にあり、広島大学も加盟している INU (国際大学ネットワーク) の加盟校のひとつです。

START プログラムに参加した学生は、滞在期間中、RA (Resident Adviser) としてキャンパス内の学生寮に住む学生の部屋で、それぞれ寮生活を体験し、現地学生との交流を深めました。平日は、現地教員によるアメリカの社会や文化についての授業を受けたり、ホスト RA と一緒に通常授業に参加したりしました。最初は、教員や現地学生の話すスピードが速く、相手の言っていることが理解できず、不安や戸惑いを感じている学生もいましたが、次第に現地の生活に慣れ、現地学生と積極的に交流する姿が見受けられるようになりました。

授業終了後の自由時間では、キャンパスのスポーツジム (UREC=University Recreation) に通い、現地学生と共に汗を流す学生もいました。また、大学以外でも、マウントバーノン (アメリカ合衆国初代大統領ジョージ・ワシントンが 22 歳から 67 歳で他界するまで過ごした場所)、シェナンドア洞窟やフロンティア文化博物館の見学、フットボール観戦、Japanese Club や Asian Mixture での外国人留学生との交流など多岐にわたる活動を行いました。

研修最終日には、ホスト RA を招いて、「日本とアメリカの教育制度の違い」「日本とアメリカの平和の捉え方」「生活や習慣の違い」等のテーマについて 2 週間で感じたこと、学んだことを活かし、グループごとに英語でプレゼンテーションを行いました。Final Banquet (送別会) では、感謝の気持ちを込めて「恋」ダンスを披露し、ホスト RA や先生方と最後まで別れを惜しみました。

帰国後の事後研修では、英語で 3 分間のスピーチを行い、2 週間の留学で感じたこと、学んだことを共有しました。多くの学生から「最初は、間違えることが恥ずかしく、自分の意見を言うことが怖かったけれど、アメリカで生活するうちに、何も意見を言わないことの方が一番恥ずかしいことに気付き、文法の間違いを恐れず発言できるようになった」という声があがりました。他にも「今後も、英語の勉強を続けていきたい」「長期留学に挑戦したい」「日本について、何も知らないことが分かったので、まずは、内に目を向けていきたい」「留学生の助けになりたい」等、学生 1 人 1 人から新たな決意を聞くことができました。今回のプログラムで得られた経験をどのように生かしていくのか、高まった意識をどのように継続させ、次につなげられるのか、今後の活躍が期待されます。



到着日、ホスト RA がバスまで迎えに来てくれました



現地の学生とカフェテリアで食事



現地の学生と授業で交流



日本の文化について紹介



グループごとに英語でプレゼンを行いました



研修最終日にはワシントン D. C. を観光